■活動レポート

エゾシカ研究委員会
外部講師を招いた勉強会の報告

エゾシカ研究会と聞いて、鹿肉料理のレシピの研究ばかりやっていると思ったら、64 億円の森林被害を食い止めることが根っこにあると知って、さすが技術士の研究会だと感心しました。五十嵐さんごめんなさい。ちょっと前まで 40 万頭と聞いていましたが、今や 54 万頭もいるのですね。しかも、苦労して 13 万 5 千頭も駆除されて前年より 1 万頭減ってもこの数ですからね。山に行くと下から 1m 以上も皮が食べられた細い木をよく見かけます。このたくましい食欲では増え続けるのは当たり前ですね。ぜひ研究を続けて健全な山を取り戻して下さい。

私の家にも以前は鹿取り名人がいましたが、今は結婚して埼玉に行きました。彼女が釧路に勤めていた時 38 号線で鹿の列に突っ込んで一頭殺処分にしたそうです。最後の 1 頭が行ったので通過できると思ったところ、もう 1 頭陰に隠れていたそうです。殺そうとしなくても処分してしまうのですからまさしく鹿取り名人です。もちろん車は大破。高い鹿肉でした。まったくもう、体が鹿で頭はウマのような娘ですので里帰りした時は駆除されないように注意しておきます。

（いつものおせっかい男 MS）

事業委員会
事業委員会主催　技術研修会（日帰りコース）報告

8 月 2 日に開催された技術研修会（日帰りコース）北海道電力㈱泊発電所見学会の報告です。福島第 1 原子力発電所の事故を受けた、津波対策の現場見学が行われました。実は、この見学会には私も参加させていただきました。当日は天候に恵まれ、「とまりん館」での北海道電力担当者による現場概要の説明を聞いた後、非常用発電設備のための土地造成工事と防潮堤設置工事を見学したことを覚えております。

原発は現在、その是非が議論されていることは衆知のとおりです。そのような状況のなかで工事を進める技術者の方々は、仕事に対して不安を感じているのではと思いました。しかし、今回のレポートを読んで、また見学会での技術担当者の説明を聞いて感じたことは、技術者は雑念を持たずに任された仕事に対してベストを尽くす、その意気込みこそ大切ではということでした。事業委員会には、貴重な見学会を企画していただいたことに感謝したいと思います。

（Y.K　血液 AB 型）

青年技術士交流委員会
―「北の技術」は世界を救えるか？―
一般の方も聴講できる、夏期講演会を開催しました

この報告を読んで、大変嬉しくなりました。それは、取り上げたテーマが北海道に相応しいことと、一般の人にも分かり易い対談形式（会話のキャッチボール）とすることで、技術士の活動を広く PR しようとの努力が素晴らしいと思うからです。

明治の開拓以来、北海道には農林水産業、鉱工業、土木建築など、積雪寒冷の地で培ってきた多くの誇るべき技術があります。これらの知識・経験を活かし、経済のグローバル化が進む今、道内に止まらずに北方圏諸国とも手を携えて社会に役立つ技術の適

用・拡大を図って行くことが望まれます（今回はキルギス共和国での事例とのこと）。

また、紀伊國屋書店 1 階のような通りがかりを含む不特定多数の人を対象とする会場では、発表者の講演とその後の質問という形よりも、対談の中で聴衆を引き込む方法が効果的でしょう。

技術士の認知度が低いことが言われて久しい。ともすれば自分の領域にこもりがちで内向きな技術士が少なくない状況において、海外にも目を向けつつ市民に志を発信して対話する若手技術士の皆さんのアイデアと行動力に、熱くエールを送りたい。

（北海道三世の中年技術士）

青年技術士の資質向上を目指す当委員会として、初めて一般の参加者も聴講できる夏期講演会を開催したとのことであるが、「技術士」について社会に広く知ってもらう良い機会であったと思う。

できればこのレポートでキルギスでの事例をもっと詳しく紹介してほしかった。北海道における農業、道路、建築の技術を海外の寒冷地に向かってどのように発信しようとしたのかこのレポートだけではよくわからない。その点が一寸残念である。

キルギスと言えばシルクロードの要衝で、北海道と気候が似ていることと「誘拐婚」があること位しか知識がないが、なかなか興味を持たせる国である。青年技術士の年齢制限を大きく越える小生にはこの委員会への参加資格はないが、若い人たちの意欲にあふれた取組みには大いに賛同し期待したい。

技術士は国家資格でありながら、まだ世間に十分認知されていないのが実情であるから、今回のような機会を捉えて技術士としての発信を続けていくべきであると思う。

（K.T）